

八尾町三東の稲刈り

VOL.4

2003年9月発行

会報誌

Toyama TANADA Network

会員数 435名 (H15.8.20現在)

# とやま棚田ネットワーク

第2回

とやま棚田ネットワーク

研修会

利賀村

8月2日

おおまめたに

うわばたけ

大豆谷・上畠地区

## Schedule

県庁前出発

利賀村大豆谷にて

- ・開会式、作業説明
- ・記念花壇に花苗植栽
- ・棚田保全活動（そばの種まきなど）

瞑想の郷にて



参加した会員  
みんなで記念撮影  
(瞑想の郷)

- ・瞑想の郷入館
- ・講話「利賀村の農業活性化とむらの魅力づくり」  
講師：利賀村議会議務局長  
長谷基六氏
- ・アンケート記入

県庁前にて解散



特産振興について話を聞く

みんなで  
農作業の日  
に参加。  
棚田保全活動を体験  
しました。



今年で2回目となる現地研修会では、利賀村主催の「みんなで農作業の日」という棚田保全活動に参加。昨年実施した第1回現地研修会（棚田見学会）のアンケート結果をふまえ、とやま棚田ネットワークとしては初めての棚田保全活動を行うこととなりました。参加者は遠藤和子会長をはじめとする会員約30名。当日は天候にも恵まれ、みんなで大豆谷地区の耕作放棄地にそばの種と肥料をまくなど、地元の皆さんと共に汗を流しました。会員からは「棚田における農作業の大変さがよくわかった」「収穫までの一連の作業を行いたい」などの意見も寄せられ、ひじょうに有意義な現地研修会となりました。

▶900mのほ場で、会員がそばの種をまきました

69歳の誕生日の記念となり、よいプレゼントをいただいた一日でした。(60代男性)

そばの種まきに親しみ、汗をかいた楽しみある日となった。花の咲く頃に再度行ってみたい。(60代女性)

わずかな棚田保全活動の支援でも体験の効果は大。広く県民の参加に期待したい。(60代男性)

参加者の声

利賀村の人々に笑顔で接してもらい、気持ち良かった。会員の方との交流も前回より深まり、参加して良かったです。(50代女性)

短時間で多彩な研修企画は有意義でした。(60代男性)





広がっています。

# 棚田コミュニケーション!

天候不順の夏でしたが、棚田保全活動は、ふれあい、学び、交流しながら、各地でさまざまな取り組みが行われました。

守り伝えよう!  
棚田のぬくもり。

「みんなで農作業の日」開催。



きれいな花が咲くといいね

## 利賀

### Topics

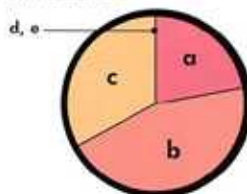


そばの種をまいた復旧田

「とやま棚田ネットワーク」の第2回現地研修会として、会員の皆さん約30名も「みんなで農作業の日」に参加。会員用のほ場（900㎡）で種まきなどを体験し、村の人たちや参加者同士の熱い交流の場となりました。  
なお、研修の際にご協力いただいたアンケートの結果（抜粋）もあわせてご紹介します。参加者の皆さん、ありがとうございました。

#### Q1

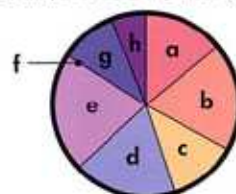
棚田保全活動支援（そばの種まきなど）の感想は？



- a とても良かった 22%
- b 良かった 45%
- c 少し良かった 33%
- d あまり良くなかった 0%
- e 不満 0%

#### Q2

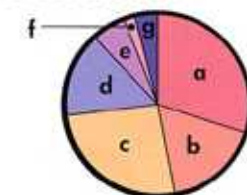
棚田保全は多様な機能がありますが、重要と思うもの3つを選んでください。



- a 伝統・文化継承 14%
- b 景観 19%
- c 米の生産 12%
- d 都市と農村の交流の場 18%
- e 国土保全（治水）機能 21%
- f 観光資源 0%
- g 多様な生物 10%
- h 環境教育の場 6%

#### Q3

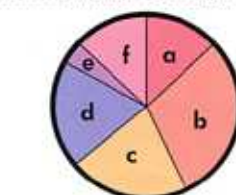
棚田との関わりとして取り組んできたことはありますか？



- a 観光で棚田の名勝に行った 30%
- b 棚田で農作業体験をした 17%
- c 棚田の農作物を食べた 26%
- d 虫や草花の観察など 自然とふれあった 15%
- e 棚田オーナーになった 6%
- f 棚田で耕作している 2%
- g 関わったことがない 4%

#### Q4

棚田保全を行う上で、あなたは今後どんな取り組みが必要だと思いますか？



- a 写真などで棚田を 都市住民にアピール 13%
- b 棚田地域のイベントに参加 30%
- c 棚田保全ボランティアに参加 21%
- d 棚田米を買うなど資金面で協力 19%
- e 棚田オーナー制度の会員になる 4%
- f 棚田ネットワーク会員の勧誘 13%

平成12年からスタートした「みんなで農作業の日」。今年は8月2日、農家戸数17戸、住民92人の豆谷集落で行われました。この夏一番の暑期中、オーナー農園のグループ110名、「とやま棚田ネットワーク」やNPO法人グリーンアーツコミュニティ利賀一行も参加。過去最高の約200人が、そばの種まきなどを体験しました。

大豆谷念仏道場前に集まった参加者は、境内脇の棚田花壇に記念植栽をした後、近くの5280㎡の復旧田へ。村役場の担当者から「そばは10aまくと約300kg収穫できて、200人前のそばになります」と教わりながら、種まきをしました。あちこちで「種に角があるね」「花はいつ咲くんだろう」というそば談義にも花が咲き、参加者同士で会話を弾ませながらの作業となりました。

豆谷地区のお年寄り「先祖から受け継いだ田んぼを守るために、多くの都会の皆さんが参加して下さったことに感謝と感謝が胸がいっぱいになりました。これからもしっかりと農業を継続し、村の棚田を守りたい」と語り、決意を新たにされた様子でした。

午後からはスキー場のゲレンデを利用した1区画100㎡のオーナー農園40区画でも種まきが行われ、山間地での農作業に参加した親子やグループの皆さんは、心地よい汗を流しました。

利賀村産業振興課  
砺波農地林務事務所



とっても順調。

# 南保

この新鮮野菜、  
なんぼ？

と、気軽に  
声をかけてください。



▶朝つゆが光る花や野菜、  
待ちきれずに荷台まで見にくる人もいます

6月30日、昨年に引き続  
いて、南保・越地区の遊休  
田で「棚田と遊ぼう、夢植  
えまつり」を開催。地元の  
南保小学校、さみさと小学  
校の児童と保護者、教員、  
婦人会や老人会など88名の  
参加があり、土を耕し、畝を作  
って肥料をまき、モチ  
キビやトロロアオイ、さつ  
まいもなどを植えました。



◀親子一緒に楽しく農作業

7月に入り、活性化協議会は、町文化体育センター  
駐車場に接する新川スーパー農道沿いに野菜直売所「南  
保新鮮農産物市場」をオープンしました。販売する農作  
物は「なんぼ新鮮野菜」、販売所を造ったのは「なん  
ぼ間伐材」、販売所で頑張っているのは「なんぼ生き  
生きお母さん」！この魅力的な3つの柱「なんぼトライ  
アングル」が口コミで広がり、オープン初日から約  
300品の品物が完売！トマト、ナス、キュウリ、枝豆  
といった無農薬野菜や季節の花も、大人気でした。

当面は、毎週水曜、朝7時から8時までの1時間限定  
ですが、行列ができるほどの賑わいを見せており、野  
菜生産に携わっている南保地区のお年寄りにも「なん  
ぼパワー」がよみがえっ  
ています。

わくわく南保活性化協議会  
朝日町農林水産課  
魚津農地林務事務所

▶開店と同時に  
売り切れる商品も！



◀大きなさつまいもになるようがんばりました

9月の収穫が、

とっても  
待ち遠しいね！

5月11日、37オーナー約170人が参加して、さつ  
まいもの苗を植えました。参加者のほとんどが親子連  
れで、農業改良普及員の実演を参考に、見よう見まね  
で楽しく作業をしている様子でした。梅雨明けの晴天  
に恵まれた7月27日には、根返し作業（いもを大きく  
育てるために、うねから飛び出たツルを地面と切り離  
す作業）が行われました。日差しが強く、汗をかきなが  
らの作業でしたが、子どもたちは「早くさつまいも  
が食べたい！」と連呼し、周囲の大人たちを和ませて  
くれました。

その後は、とやまふく  
おか家族旅行村に移動し、  
全員でバーベキュー。地  
元で育った野菜をおいし  
そうに食べるオーナーの  
皆さんを見て、地元の皆  
さんがうれしそうに微笑んでいた姿が印象的でした。  
待ち遠しい収穫は、9月28日。収穫祭では餅つきも  
行います。



◀あつあつをバクリ！

来年度も実施しますので、オーナー希望の方は福岡  
町経済振興課までお問い合わせください。

TEL 0766-64-5333 (代)

福岡町経済振興課  
高岡農地林務事務所

# 五位





# 中央農業高校 「棚田を守り隊」

▲大山町日尾集落センター前で「守り隊」集合  
棚田は僕らにまかせて！

## 高校生の元気パワーで 棚田もイキキし始めて います！

中央農業高校の生徒が始めた「棚田を守り隊」も今年で3年目。7月11日には梅雨空のなか、昨年続き、2回目となった大山町日尾集落で棚田の畦草刈りを行いました。おなじみとなった黒Tシャツ姿の生徒と先生約20名が到着すると、出迎えた日尾集落の皆さんから大きな拍手が起きました。雨の影響で午前中だけの作業でしたが、棚田を守り隊を含む約40名が棚田の保全活動に汗を流しました。午後からは地元集落の方と班を作り、伝統芸能である獅子舞の指導や棚田に関する意見交換会を実施。むら・農業・棚田について話し合い、棚田の持つ多面的機能が地球環境の保全に大きな役割を果たしていることを再認識しました。今後も、日尾集落から、棚田を持つ他の集落に輪を広げていきたいと思えます。意見交換会でアンケートも行いました。

大山町農林課  
富山農地林務事務所



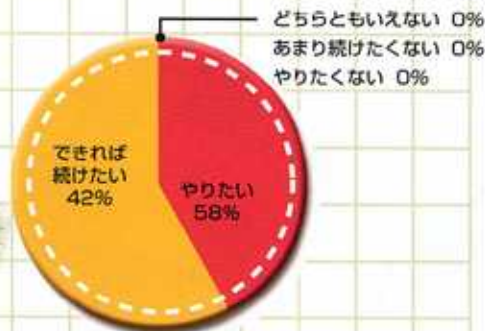
## 棚田に対する アンケート調査結果 (抜粋)

対象：中央農業高校生を含む参加者30名

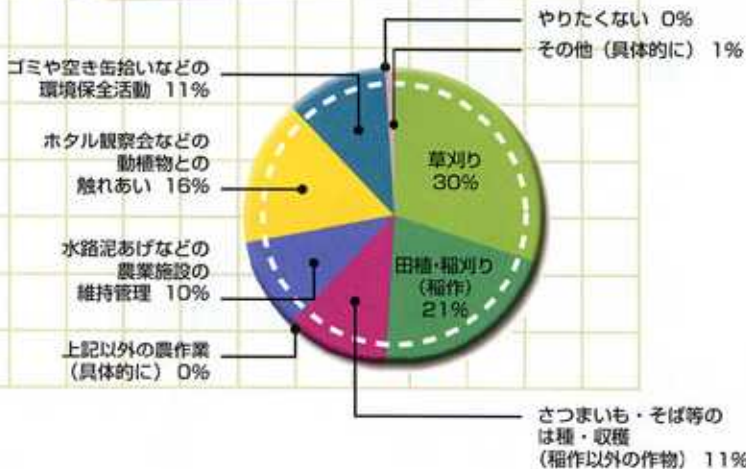


① 草刈り活動に参加してみたい

棚田での農作業を今後も続けていきたいと思えますか？



② 棚田を保全するうえで、今後どんな活動に参加したいですか？



## とやま棚田ネットワーク

会員募集中

「とやま棚田ネットワーク」は棚田に興味をもつなら、誰でも会員になれる棚田の応援団。棚田をもっと知りたい、保全活動に参加したい、そんな仲間を募集しています。

### 会員になると？

- ① 会員証が交付されます。
- ② 会報誌により、棚田に関する取り組みや催しの情報、参加募集の案内が受けられます。
- ③ 保全活動などへの参加は自由です。

### 会員になるには？

原則高校生以上で、棚田のことをもっと知りたい方、棚田に関係している方ならどなたでも会員になります。

### 申し込み・お問い合わせは？

「とやま棚田ネットワーク」事務局  
(社)富山県農林水産公社設計管理課へ  
郵便番号、住所、氏名、性別、年齢、職業、電話番号、Eメールアドレス、資料送付先を明記しお申し込みください。

入会状況/平成15年8月20日現在435名の方が棚田仲間になりました。

とやま棚田ネットワーク 事務局

とやま棚田ネットワーク会報誌VOL.4/2003年9月25日発行

富山県農林水産公社設計管理課内  
〒930-0096 富山市舟橋北町4-19  
TEL 076-441-7398 FAX 076-444-3851  
Eメール sekn6@taff.or.jp  
ホームページ http://www.taff.or.jp



**お便り募集** 会報誌の感想、棚田に関する情報・意見など、あなたの声を寄せてください。また、会報誌に掲載する棚田写真を募集中です。郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・会員番号をお書き添えのうえ、郵送にてお送りください。